

収蔵資料紹介

再発見 音吉さんのイナウ

大坂 拓

研究部アイヌ文化研究グループ 研究職員

イナウはアイヌ民族の儀礼具の一つで、神々への捧げものに用いられるほか、それ自体が御神体となる場合もあります。地域・家系による違いが認められるため、集団間の系統関係を把握するのに役立つと考えられ、1930～70年代に数多くの研究者によって精力的に収集されました。当館では、今年から所蔵資料全点の確認を進めています。

◇

作業を進める中で、「稚内アイヌ音吉作（関正氏寄贈）H.KONO」と書かれた資料（写真1）が見つかりました。この記載は、稚内の音吉さんが作ったイナウを地元の関正さんが収集し、のちにアイヌ文化研究者の河野広道氏に寄贈されたことを示しています。関さんが1932（昭和7）年に聞き取った記録によれば、音吉さんは礼文島生まれで稚内市を経て豊富町兜沼に移り、当時76歳¹。狩猟の名人であり、和入植者を支援したことで知られています。1871（明治4）年の利尻島の名簿に「同居男ヲトキツ」



写真1 音吉さんのイナウ（全長62.4cm）

の名が見えますから（写真2）、一時

期、利尻に居住したこともあったようですが、いずれにしても宗谷周辺の生まれ育ちに違いありません。

宗谷地方のイナウはこれまで、河野によるイラスト1点が広く知られてきたのみ²。その実物が職場の収蔵庫に埋もれていたのは大きな驚きでした。

◇

宗谷地方のアイヌ文化は、海峡を挟んだサハリンアイヌと近いと推測されることもあるなか、このイナウの特徴が美幌や足寄、名寄など道東・道北地方の資料とよく類似していることは意外でした。もともと、それが古くからのこの地域の特徴だったと即断することもできません。利尻・礼文両島のアイヌ民族は1800年頃に伝染病の流行によって激減しました。その後、宗谷からオホーツク海沿岸の場所請負人となった藤野家は、ニシンをはじめとする水産資源が豊富な宗谷地方での労働力を補うため、紋別～常呂のアイヌ民族の集落から労働人口の約半数を動員し、そこに働き口を求めて出稼ぎする人々も加わる状況が生じていました³。

道東・道北の資料との類似性の背後には、藤野家の漁場経営のもとで、サハリンとの間よりはるかに高い頻度の

人間の移動がオホーツク海沿岸のルートに生じていたことが影響しているのかもしれませんが。19世紀の歴史的動向の中で、18世紀以前の集団関係を上書きする形で新たな地域圏が形成されていた可能性もあるのです。

◇

ところで、これほど重要な資料が、なぜ長いあいだ広く知られずにいたのでしょうか。実は、北海道開拓記念館時代の1981年に刊行された資料目録『民族I』には、本資料は豊富町収集と記載とされています。当時の担当者は、資料に記された「稚内アイヌ音吉」が豊富町兜沼で晩年を過ごしたことで著名な人物であることに気づき、目録にその結果を反映したのです。しかし、こうした経緯は歴代の職員に引き継がれず、結果として当館職員ですら、資料そのものを手に取るまでには作者に関する情報を知ることができなくなってしまいました。

資料に伴う情報を分かりやすく整理し、個人情報などに配慮しつつ整備公開していくことで、このような資料の埋没を防ぎ、アイヌ民族の歴史をより鮮やかに明らかにするための基礎を充実させていく必要があります。

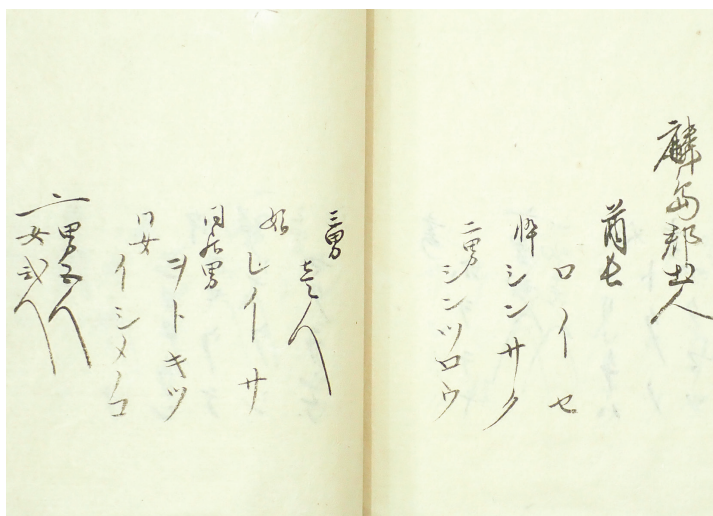


写真2 「明治四年 当藩支配所調書」（北海道立文書館所蔵）

¹ 藤沢隆史他2017「関正フィールドノート（1）」『利尻研究』36：73-82による。年齢は諸説ある。

² 青柳信克編1982『河野広道ノート 民族誌篇1』北海道出版企画センター

³ 谷本晃久2020『近世蝦夷地在地社会の研究』山川出版社

活動ダイアリー

2020年6月～2020年8月の記録

※■は展示活動、■は教育普及活動、■はその他の博物館活動です。

5月31日(日)

■はっけんイベント「おうちであそぼう「恐竜紙ずもう」」を配布。7月31日(金)まで。配布数694セット。



6月11日(木)

■開催中止となった第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」を北海道博物館HPにてオンライン公開。

6月13日(土)

■「ちゃれんが古文書クラブ①」を開催。担当：三浦泰之・東俊佑。

6月19日(金)

■ARスタンプラリー-3(ゴールデンカムイ、チェックインスポット⑥)設置。2021年3月31日(水)まで。

6月20日(土)

■百年記念塔視察。報道機関。

6月21日(日)

■百年記念塔視察。守る会・未来を考える会。

6月24日(水)

■館内定例研究報告会を開催。発表者：添田雄二。

7月3日(金)

■2020特別展示「アイヌ語地名と木田金次郎」展共催、第9回アイヌ文化巡回展を開催 於：木田金次郎美術館。11月3日(火・祝)まで。

7月17日(金)

■北海道みんなの日(無料開放)。

■カルチャーナイト2020オンライン開催。当館は動画「家族みんなでおうちミュージアム ぐるぐるまきのアンモナイト折り紙を折ろう!」で参加。7月19日(日)まで。

7月19日(日)

■「ちゃれんが古文書クラブ②」を開催。担当：三浦泰之・東俊佑。



7月29日(水)

■館内定例研究報告会を開催。発表者：杉山智昭。

8月1日(土)

■はっけんイベント「きょうりゅう FAN FUN FAN」(恐竜好きの楽しい扇子)を配布。9月30日(水)まで。



■「わたしたちが考える北方領土問題コーナー」を設置。8月30日(日)まで。



8月14日(金)

■総合展示室クローズアップ展示①～⑦を展示入れ替え。

①近世文書を読む③工藤家文書



②船絵馬



③折りの造形-キツネ神の舟-



④新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち



⑤馬追いの道具



⑥北海道とオリンピック



⑦恐竜と鳥をつなぐ骨



8月15日(土)

■「草原の主・トノサマバッタをさがそう」を開催。担当：堀繁久・水島未記・表深太・鈴木あすみ・自然ふれあい交流館スタッフ。



■「ちゃれんが古文書クラブ③」を開催。担当：三浦泰之・東俊佑。

8月18日(火)

■令和2年度博物館実習(14名)。8月28日(金)まで。

来館者数

○2020年6月～2020年8月
 総合展示室 11,099人 特別展示室 0人 はっけん広場 0人
 ○累計(2015年4月～2020年8月)
 総合展示室 528,387人 特別展示室 388,040人 はっけん広場 120,784人

森のちゃれんがニュース 第21号

発行日：2020年9月29日

編集・発行：北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

Tel. (011) 898-0456 Fax. (011) 898-2657

ウェブサイト <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

©Hokkaido Museum, 2020